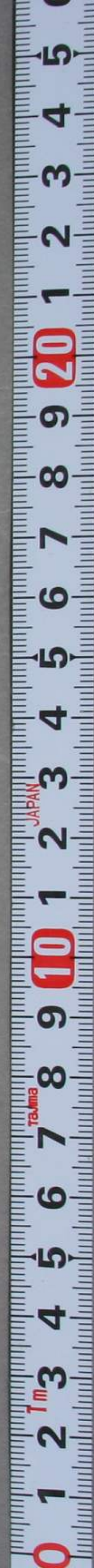


1356
13



九卷の巻

四六

18
1556
卷 1

坂部下



中儀

序



昔こよりつ今ま不た變た其のハし湖こに
之のさくあれとそながくちい
とつびの猪さ尾かまんかいなるた
かの書をあのから取りてよるせ

所古いむき物被口合とせり
汝新作を以り集く今
瀬口左平糸と記し極小
とぞ物なるに

未
三月



源は太平樂をそ一

太平樂

太平屋糸なるといふ人有り妻の髪
をげてかそ二筋中一有りうしろのまげ
めをすすド襷の髪をよめ糸にて
ゆふ或人ば糸なる小者糸歌中を
多るがもむづまんの正面に有りまの井
を縫針あり糸なるは糸記をよめ

おひりーグ急井の徳ハ何故とたづ
つれの彼人こころハテや松の垣り
後のつるとりふあやーぢや

新日

性急る人の方へ新日の礼お返しに行
せんをらをとたそく飛くせーあまらり
何とせアイクハよハ新日ていざらますら
とんひらる小彼たんとよのイヤたいかいの

朝日でもおぼります

新日

回今此女中うらとくハ法蓮東入はありし
うそのさうあつこーとんふさうたれひるあ
いまのとびつてうさまぐがさあそとま
といまれけいさだこころが何といふて
いさしとあへるあうとくこころあ
あらいまのいさ

まらびんまむとくおそのとちけりら

い町人くまり遊とごりれいしりしだんぐ
おらんあられれどかまふれバやふをらとを
うらとありてかのもりさうめんとせられし
おまりの終りけりしとくさざらふむらひに
あるしと物さうくたぐ

たとのとりちぐ

文章ある習はまよびらふはせんをまらしくを
あそぶとみられおとりのあられれれど
そまもびあるとさた人とつてうりこらぐ

て日連くとよびられまそのきんぶよの法
花もふおとみけは然と射て法然くとよ
ひふらるときそのむととくみかいらふ法
花ちれおちられは法花ちのわゆるれし
里日連がまけしとち

魚けり持南 けり持南

うとけり持南とゆうかんをんをみく川が重れ
まきなる男あつふまふりれバ師通法りぞ
とつてしこれあくと倍くあがりくちあり



志保し小僧

ちりとおろししたまへと申をかしこまつく二階
 へありをりとおろしけれは修造下あつく
 おくかのちりれささ入ちりてさ日りおれがう
 りり今れまをいでござりもまてうといまれけ
 ちバ修造があるやどをいごござる所〜くら
 あいと申〜くちんまよ

系みみの志保ん

上系〜さる大進〜おへ明友より人美りける
 小おろしげん〜ふ人ちりれを大ご人小

おらんあられるるはそのあうくせとゆふちうら
さらあふふあーかぬぬぐれあ人たふも
いうてあいう。かばう人くもあははまぬ

里くんがせん

えちりぐせちち男あるときふは乃たーとあ
そりーに川う急流うてたるとみくは心
せつとせかーととーなるふちの障あこ
はしきいなるとみくそのせつとさーとら

てくれよきみやうとゆ人をころどきこみかく
だきれとゆう人ちあ人ーとまああーも
ためくこみやう

魚くちあくぢり

たうのでりちあふのまねとらんかしくもく
ゆきそめてこひとゆつた中りーふそめて
うりーまねとんくこねにあつけくあ
たとちうたふくこああこせあまじー
うりまねとあうの男ーのこみやうてあん



でうらまよんしうりとゆびおやまこーの
 びんごうでござる

教ふれぬまへ人

若人太坂へ金流ぐざりるふお母あそびり
 といささればあふしくかの金と梅あそそぬ
 しんか純金ふし柳ゆきり西人が夕せん
 むひんれぢあぢん毎中のこと白人了る
 びんごうでうらまよんしうりとゆびおやまこーの
 びんごうでうらまよんしうりとゆびおやまこーの
 びんごうでうらまよんしうりとゆびおやまこーの

あむらくしそわびさうぞれを又も掛一也
まふらびでのうさひれをぬまびしぬ
からぬわびぐあられども

作れ子の考命

作の子考命して中らつらも八百やぐをだして
言垂ふ考とそめさうらん因よりありいごまふ
よりあ幸ハハ命く一転をてまふとあかく
命せふそのうち一転こらぬてその月この
そきてみれをちや八百やくんせぐあらうこ

はくせふでかーい

あふとあそをなまゆうてもぞかーいごと
う足好むあうとき念仏傳法とめられしよ
下女の甲んがだんを金佛新く替ハととりを
されうとそをとりとひいとゆされえ
うばでうちこれとてぞかーい

翻く師の口命

文を師の男うさひの師師のあ人ゆさられよ
どしくたまわれとあいらを師師にあらみ

られしふ 役^{やく}のきし^{おき}をみね^みとつう^う 新^{あらた}浄^{じやう}なりを
里^{さと}のれを^を所^{ところ}通^{とほ}あき^{あき}まていふ^い 親^{おや}世^よふ^ふた^たい^いと^とそ
之

洞^{ほら}のあいさ^いり

夫^{おとこ}者^{もの}を男^{おとこ}洞^{ほら}傳^{つた}の^のふ^ふと^とて^ては^はら^らと^とう^うち^ちを^をい
里^{さと}し^しふ^ふ北^{きた}う^うひ^ひみ^み治^ち方^{かた}う^うひ^ひだ^だし^しれ^れど^どか^かの
男^{おとこ}が^がま^まの^のど^どく^くそ^そう^うを^をか^かき^きて^てま^まし^しく^くご^ごん
里^{さと}よ^よか^かし^しふ^ふ少^{すく}綱^{つな}あ^あき^きれ^れま^まを
洞^{ほら}を^をま^まあ^あき^きつ^つぬ

木村長三郎

所

百五
十



